

鳥取沿岸の砂浜海岸復元・港内堆砂抑制に向けた技術検討委員会（第1回）

2012/11/07 開催結果概要（主な意見・論点）

■資料1「技術検討委員会開催趣旨」

■資料2「技術検討委員会規約（案）」

※開催趣旨・規約（案）了承。事務局総括は技術企画課。

※出席委員からの推薦により、地元精通した松原委員が委員長となる。

■資料3「鳥取沿岸の砂浜海岸復元・港内堆砂抑制に向けた技術検討の進め方（案）」

■資料4「鳥取沿岸の砂浜海岸の現状と課題」

■資料5「鳥取沿岸の砂浜海岸の現状と課題に基づいた論点整理（案）」

（佐藤委員）資料5の「サンドリサイクル」の定義について、「サンドバイパス」を含めなくて良いのか？混乱しないように使用すること。

（事務局：安本）鳥取県では、サンドリサイクルが主であり、そこにはサンドバイパスも含んでいる。サンドリサイクルという言葉で県民に浸透している。県民に分かりやすく表現するため、鳥取沿岸の総合的な土砂管理ガイドラインに沿ったソフト対策について、サンドバイパスを含めて、代表してサンドリサイクルと表現している。

（宇多委員）陸上施工、海上施工の両方のコストダウンを狙っているのか？

（事務局：安本）陸上施工では運搬部分、海上施工では採取部分のコストダウンを進めたい、と欲張って両方を狙っている。

■資料6-①②「サンドリサイクルの国内事例・海外事例」

（宇多委員）オーストラリアのゴールドコーストで上手くいっているサンドバイパス事例は、粒径が0.1mmと非常に細かい砂である。鳥取の砂浜の粒径とは全然違うので、そのまま鳥取で使って成功するとは限らない。これは、そのまま導入するというわけではなく、一応国内・国外で成功している事例も知っておこうということが良いか？

（事務局：安本）はい。鳥取沿岸の粒径は0.2mm程度であり、そのまま鳥取に導入してうまくいくとは考えていない。国内外の事例を幅広く知ることが大事と考えている。そのために、情報収集・整理したものである。

（佐藤委員）静岡県の福田漁港で昼間のみ稼動しているのは、日本の安全保安基準上の問題がネックになっているのではないか？

（松原委員）なぜ、静岡県の福田漁港は、上手くいっていないのか？

（事務局：安本）福田漁港については、情報収集する。今後も、先進事例の成功部分、失敗部分から良いところ取り出して、鳥取に導入する予定である。良いところを組み合わせ、鳥取方式のサンドリサイクルシステムを完成させたい。

■資料6-③「簡易な移動機構による浚渫工法を活用」

（宇多委員）どのくらい砂が運べるのか？長い距離を運ぶためにコストがかかるのでは、大きなコストダウンは出来ない。陸上輸送にこだわる必要がない。「（独）港湾空港技術研究所）自沈有孔管を用いた簡易な浚渫装置」の砂の採取部分と他の方法との組み合わせでコストダウンを図る必要があるのではないか？

（佐藤委員）オーストラリアのヌーサービーチと同じような仕組みに見える。オーストラリアの企業が開発した技術を持ってくるのは高価になる。自沈有孔管のポンプの特許はどうなっているのか？（独）港湾空港技術研究所であれば、それを使うのが安く済む。

（宇多委員）思い切ったコストダウンが図れないと、長い間続かず、2、3年で終わってしまうのではないか・・・

（松原委員）綺麗な砂だけを浚渫できないか？

（宇多委員）浚渫する場所、排出場所について、やみくもにどこでも良いということではない。

(事務局：安本) 現在の浚渫単価 2,100 円/m³ を少しでも下げたい。採取から排出までの一連過程の効率化・適正化を検討することとしている。

■資料 6-④「サンドポンプ等浚渫装置の動力源として洋上風力発電等再生可能エネルギーを活用」

※委員からの特段の質問・意見なし。

■資料 7「再生可能エネルギー（風力・太陽光等）の接続・活用に当たっての現状と課題（案）」

(山崎委員) 岩美町内に計画されている風力発電施設の位置は、海沿いか？

(事務局：原) 海沿いではない。その他参考として、日本海側は、西へ行けば行くほど風が強く、山陰地方では山口県寄りが洋上風力に適している。鳥取県の沿岸では、西部の方で風が強く、東部の方へ行くと弱くなる傾向にある。

(和田委員) 海沿いの国立公園内での風力発電施設の計画があるのか？

(事務局：原) 陸上の風力発電施設は県内に 41 基あり、平成 19 年度以降、設置数が増えていない。今後は、洋上への展開を推進したい。

■資料 8「洋上風力発電等再生可能エネルギー導入に対する港湾・漁港管理者の対応状況」

※委員からの特段の質問・意見なし。

■資料 9「岩美海岸（浦富地区）及び田後港海岸の侵食対策事業の現状と今後」

(宇多委員) 資料 9 別添 3 の 11 頁の記載について、人工リーフの開口部の深掘れの話。

大まかで良いので、侵食のオーダーと対策可能なオーダーを始めに確認しておくこと。総論賛成であるが、各論反対みたいな話になり兼ねない。

(宇多委員) 本日の議論は多岐に亘っているので、次回以降は内容を絞ってほしい。

(黒岩オブザーバー) 平成 28 年頃まで予定されている人工リーフ拡張工事がそのまま実施されると、田後港への流れがより強くなり、侵食を助長し兼ねない。田後港への堆積も助長し兼ねない。東・西人工リーフの機能拡張は、慎重な議論を要する。

(佐藤委員) そのような議論をこの技術検討委員会で検討するとなると、相当なデータを準備する必要があり、無理である。

(松原委員) 東・西人工リーフの整備については、慎重な検討を要するが、この件は別途行うべきである。

(宇多委員) 東・西人工リーフ等の整備について議論しない場合、いろいろ検討した割には海岸侵食と港内堆積の状況が全然変わらない、といわれる可能性もある。

(佐藤委員) 変わらなくて良い。目指すのはサンドリサイクルのコスト低下である。

(宇多委員) 白砂青松に戻すなど良いことばかり言わなければよい。

(事務局：安本) 本技術検討委員会では効率的なサンドリサイクル手法を検討することが目的であり、個別の海岸の侵食対策を評価するものではない。たまたま、事務局案として浦富海岸を提示しただけである。

(松原委員) 議論の方向性が見えてきた。

■資料 10「今後の検討課題及びスケジュール（案）」

※委員からの特段の質問・意見なし。

※次回、平成 25 年 3 月頃の開催予定。

以上